

第63回試験研究成果発表会 ～激変する気候や生産環境に対応したこれからの稲作～

【日 時】 令和8年2月9日（月）午後1時10分～午後4時20分

【場 所】 農林総合研究センター新本館（千葉市緑区大金沢町180-1）

発表1 成果発表

1 温暖化による水稻の生育の変化と対策

（1）温暖化でイネの生育はどうなっている？

—近年の高温条件下における生育をデータで振り返る—

水稻温暖化対策研究室 平井 達也

近年、地球温暖化の影響と思われる気温上昇が観察され、特に直近3年間は水稻の生育期間の気温は過去最高となりました。このため、イネの出穂期は年々早くなる傾向にあり、これまでの栽培暦による栽培管理が難しくなっています。また、イネの出穂前の生育量が多くなっており、倒伏するイネや籾数増加による玄米品質の低下が目立つようになってきています。水稻の安定生産のためには高温条件下における生育の傾向を把握し、それぞれの圃場に適した対策をとる必要があります。



倒伏したイネ



乳白粒の増加

発表2 成果発表

1 温暖化による水稻の生育の変化と対策

(2) 高温条件下における栽培管理のポイント

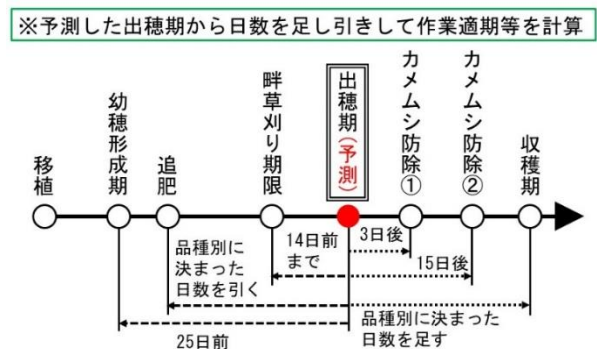
水稻温暖化対策研究室 中村 充明

高温条件下における水稻生産では、適期の栽培管理が一層重要です。具体的には適期の水管理・追肥・病虫害防除です。高温条件下では玄米品質が一般的に低下する傾向にありますが、中干し等で籾数過多を防ぐことにより「乳白粒」を、出穂期以降の葉色の維持により「背白粒」、「腹白粒」、「基白粒」等を低減させることができます。また、全量基肥肥料の施用は倒伏の軽減及び玄米品質の向上に効果があります。

適期の栽培管理は水稻生育予測システム「でるたTM」がお勧めです。



中干しの効果が向上する溝切り



水稻生育予測システム「でるたTM」

発表3 情報提供

1 温暖化による水稻の生育の変化と対策

(3) 千葉県主力栽培品種の高温条件下における玄米品質

—暑さに強い「ふさおとめ」を活用しよう—

水稻温暖化対策研究室 西田 暁彦

近年、登熟期間中の高温により玄米の外観品質が低下する、高温登熟障害の発生が全国的な問題となっています。そこで、千葉県主力品種の高温登熟性を調査したところ、早生品種「ふさおとめ」は玄米品質が非常に優れていることが明らかになりました。「ふさおとめ」は生産現場において定着しておりますが、改めて優れた高温登熟性を認識し、活用していただきたいと思います。

他の主力品種については、主に粳数過多を防ぐことにより一等米に相当する品質が得られると考えられます。



高温により発生した基白粒



「ふさおとめ」の玄米

発表4 成果発表

2 激変する生産環境の変化と対策

(1) 最強の侵略植物ナガエツルノゲイトウの水田における防除

水稲温暖化対策研究室 山本 一浩

南米原産の特定外来生物ナガエツルノゲイトウは、県内の水田や畦畔等に分布が拡大しつつあり、定着、まん延すると水稲の減収や収穫作業の支障等を引き起こします。さらに、茎や根の断片から再生するため、刈払い機等による草刈りは発生を拡大することとなり、除草剤による防除が重要となります。そこで、除草剤を用いた水田内及び畦畔における防除体系について紹介します。



ナガエツルノゲイトウの群落



ナガエツルノゲイトウが畦畔一面に
繁茂する様子

発表5 成果発表

2 激変する生産環境の変化と対策

(2) 近年急増中！イネの大敵「イネカメムシ」に対する有効薬剤と防除適期

病理昆虫研究室 塩田あづさ

近年発生が増加しているイネカメムシは、出穂期の水田に侵入して不稔を生じさせ、出穂後の稲穂を吸汁することで斑点米を生じさせる害虫です。そこで、ポット試験により本県における有効薬剤を選定し、併せて防除適期について明らかにしました。また、これらの結果を踏まえて行った現地発生圃場での薬剤防除効果について紹介します。



イネカメムシの成虫と幼虫



イネカメムシによる被害粒

発表6 成果発表

2 激変する生産環境の変化と対策

(3) イノシシはどこを狙う？ 圃場リスクの見える化と対策の効果

生産環境研究室 内田 耕陽

千葉県ではイノシシによる農作物被害が最も多く、県南部から県北部に拡大しています。そこで、県北部で行った水稻のイノシシによる被害調査の結果から、圃場周辺の要因を整理し、被害の出やすい圃場と効果的な対策を明らかにしたので紹介します。



水田のイノシシによる被害



水田に侵入するイノシシ